

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年3月17日

事業所名 帯広市幼児ことばの教室

		チェック項目	は い	い え	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4 人	0 人	・適切な数の指導室があり、その時間に使用したい部屋については、その時間に通室して来た子供と職員の中で決めながら、調整しています。	・今後も左記を継続します。
	②	職員の配置数は適切である	1 人	3 人	・年度途中で退職者が出た後、すぐに職員の募集を行いました。必要な人員を確保できないまま、年度末を迎えることになってしまいました。4人の中で、指導や事務分担を行い、支障のないように補いながら進めていきました。	・年度途中で退職者が出たことで、お子さんはもとより保護者の方に対し、不安を与えてしまう結果となりました。また職員も1人工以上の仕事をする事になり、指導に専念することや、十分な研修が受けられなくなりましたこと確かです。 ・事業所として人員配置上は、特に問題があるわけではありませんが、再度人員や事務分掌の整理、また事業所以外の仕事の見直しなど、お子さんの指導・支援に専念できる体制が取れるよう、社会福祉協議会の中で検討をしていきたいと思っております。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4 人	0 人	・各指導室の前室にある小さな段差については、各担当者が、お子さんと保護者の方に注意をお伝えしながら、危険の無いように注意を払っています。	・今後も左記を継続します。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4 人	0 人	・子供や保護者の評価も概ね良好です。机とイスの高さの指摘に関しては、お子さんの年齢が3歳から6歳と体格差も大きいことから、座布団の活用などで工夫し対応しています。	・個別指導の部屋としては十分の広さがあり、お子さんも保護者の方も良い評価をしてくださいましたが、机とイスの高さについては、確かに調整不足でした。年齢ごとに机やイスを整えるのは難しいので、必要に応じ、座布団等を利用して、簡易的に高さ調整を行い使用していきたいと思っております。 ・また今回の新型コロナウイルスやインフルエンザなどのウイルス対策や、塵や埃などのアレルギーを持つお子さんも多いことから、その対策などについても適正に整備していきたいと考えています。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4 人	0 人	・個別支援会議や中間評価会議、発達検査後の判断会議などの中で、必ず職員全員で行っています。	・今後も職員が共通認識持つ中で、のお子さんや保護者の指導に当たれるよう、PDCAサイクルを意識して進めていきます。

業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4人	0人	・根本解決につながらなくても、指摘のある点については、真摯に受け止め、取り組み実施しています。	・今年度から事業所としてスタートしているので、「自己評価」という作業は初めてですが、改善点や指摘に対しては、真摯に受け止め、早急に取り組んでいきたいと思っています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4人	0人	・今回の評価を教室だよりに添付し、保護者や関係機関に配布する予定です。	・新年度ホームページを改定するにあたり「自己評価」についても公開できるよう作成していきたいと思っています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0人	4人	・第三者による部外評価自体は行っていませんが、法人監査が年4回行われる中で、事業報告等を行っています。	・今年度初めての評価なので、第三者の外部評価がどのようなものなのか研鑽しながら、必要な改善をはかっていきたいと思っています。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4人	0人	・年間研修計画を作成し、定期的に研修を行っています。また各種研修会の参加も、出来るだけ参加できるようにしています。	・指導時間内に行われる研修会への参加は難しいのですが、職員の資質向上の点では、欠かすことの出来ないものと思っており、研修の機会を多く確保していきたいと思っています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4人	0人	・指導開始前に、来所相談、発達検査などを行っており、その資料を基に判断会議を実施し、お子さんの様子の把握、原因の推定、今後の指導の方向性などを、職員全員で行っています。	・判断会議は、お子さんの個別支援計画に関わる大事な会議となるので、その時間をきっちり確保し実施していきたいと思っています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0人	4人	・ある程度ことばに特化した内容になるので、標準化したものではなく独自のものに近いと思います。	・標準化されている市販のものは使いませんが、40年以上の歴史の中で使われてきているアセスメントツールを時代に合わせながら使用しています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4人	0人	・児童発達支援ガイドラインを参考に、当事業所のお子さんに必要な項目を選択しながら、個別支援計画書を作成しています。	・お子さんの成長に合わせて見直しを行い、その都度、個別支援計画書を提示させてもらっていますが、今後も、保護者に分かりやすい内容や提示の仕方など、工夫を重ねていきたいと思っています。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4人	0人	・個別支援会議や中間評価会議などの中で、計画に沿った指導や支援になっているかを、職員全員で話し合い、必要な修正を行っています。	・個別指導のため支援計画に基づき、個々の職員が考えながら指導・支援に当たりますが、すべてを一人の職員に任せるのではなく、職員全員の共通理解の基に、必要な指導・支援になっているのかを考えていくことが大事になるので、それぞれの会議時間の確保をしながら進めていきたいと思っています。

適切な支援提供	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4人	0人	・個別指導のためチームでの立案は行っていないが、職員同士での指導・支援の在り方など話し合いながら、自分の指導に生かしています。	・会議の中で話し合う場合もありますが、職員同士指導・支援の前後で話合うことも大事な時間と考えています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4人	0人	・各担当者の知識やアイデアに基づき、お子さんが魅力を感じ、飽きないような工夫を行っています。	・同上
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	4人	0人	・事業所の中では、個別指導しか行っていないので、お子さんが所属している保育所や幼稚園と連携をさせてもらいながら、必要な計画を立てています。	・少なくとも、年2回は保育所や幼稚園に訪問してもらいながら、集団での様子を参考にさせてもらい、個別支援計画の立案、修正などを行っていくようにしたいと思っています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4人	0人	・支援開始前には、朝の打ち合わせを行い、その日の職員の同行や、通室してくるお子さんの人数、所属訪問先などについての確認は行っています。	・今後も左記を継続します。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4人	0人	・個別指導のため、毎回の指導に振り返りは行っていないが、必要に応じて気づきや支援の方法などの相談を行うことはあります。	・個別指導のため、すべてのケースについて支援後に振り返りを行えるわけではありませんが、振り返りに必要なケースの相談はその都度話題にするなど、職員の困り感に応じられる体制を整備していきます。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4人	0人	・日課表の中で、指導終了後、次の指導ケースが来るまでの間、記録を書き、録音を聞き、保護者などに連絡を取るなどができるように、30分間の時間差をつけています。	・個別指導のため、個々の指導記録が用意されており、毎回指導記録はとることになっています。前回の記録を見ることで、今日すべき指導が分かるものなので、時間を取ってでも記録することが大事なことで、きちっと記録する時間を意図的に確保することが大事なことだと思っています。30分が適切かどうかの検証をしながら今後の日課表を考えていきたいと思いをします。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4人	0人	・個別支援計画に対して中間評価を行い、個別支援計画の見直しを行っています。	・年間行事計画の中で、個別支援計画会議や中間評価会議の日程を組みながらすすめるのは大切であり、継続していきます。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0人	4人	・セルフプランのため相談支援事業所とのかかわりはありません。	・相談支援事業所を活用しているお子さんが通室になった場合は、必要に応じ対応させていただきたいと思いをします。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4人	0人	・事業所の建物自体が保健福祉センターであるため、子育て支援課とのつながりは常にあり、連絡、連携を取らせていただいています。	・今後も左記を継続します。

関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—		
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—		
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	—	—		
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4人	0人	・3月末に新1年生になるお子さんの言語通級指導教室や特別支援学級などへの引き継ぎが予定されています。	・事業所になる以前から、小学校への引き継ぎは行っておりませんでした。引き継ぎに関しては、保護者の意向を踏まえた上、意思確認をきちっと得ながら進めていくことが望まれます。
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0人	4人	・並行通園は行っていないので、専門機関とのかかわりでは、病院からの助言などがあります。	・並行通園を行っていないので、そういった機会はありませんが、必要に応じ、助言や研修を受けられるような体制づくりが必要だと考えています。
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4人	0人	・ほぼ全員の子どもが、保育所や幼稚園を活用しているため、事業所として交流の場面は設けていませんが、関係機関訪問を行いながら情報の共有を行いながら指導に生かすなどの、連携を取っています。	・今後も左記を継続します。
	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4人	0人	・平日の午前中に開催される場合は参加が難しいですが、土日開催の研修会には参加しています。	・今後も左記を継続します。
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4人	0人	・指導後、毎回保護者の方との時間を設けてあり、その日の指導の状況や家庭での様子などをお聞きしながら、共通認識を持つように努力しています。	・今後も左記を継続します。
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2人	2人	・個別指導の中で、同室しながら保護者のかかわり方などについて話し合ったり、一緒にかかわったりはしますが、トレーニングとしては行っていません。	・必要があるお子さんに関しては、保護者の方と話し合いながら、実施する必要があると思っています。 ・今後も左記を継続します。
	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4人	0人	・利用契約を結ぶときに、重要事項説明書の説明の中行っています。	・今後も分かりやすく、丁寧な説明に心掛けていきます。

保護者への説明責任						
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	4人	0人	・少なくとも年2回は個別支援計画書を作成し、保護者に説明後同意を頂いております。	・今後も左記を継続します。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4人	0人	・③③同様、その時間を使いながら、相談に応じています。	・今後も、保護者の方の相談には丁寧に対応していきたいと思います。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0人	4人	・父母会はありません。必要を申し出られた場合は、既存の「帯広地区こたばを育てる親の会」の入会や研修会の案内を行っています。	・今後保護者の方から、父母会の設立などの要望がありましたら、前向きに検討をしていきたいと思います。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4人	0人	・担当者が常に対応を行えるようにしています。担当者の対応では難しい時には、児童発達管理責任者が対応するなどの対応を行っています。	・今後も、指導時間内での相談が可能な場合は、担当者が対応するようにしていきますが、時間内では相談しきれないとき、または担当者の対応では難しい時には、時間を別にとって対応できるよう、柔軟に対応していきたいと思います。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4人	0人	・教室だよりを発行し、行事予定や学習資料、指導のひとこまなど掲載し、保護者や保育所・幼稚園などの所属にも、事業所の理解を図っています。	・今年度は事業所として初めての年であり、いろいろ手間取ることも多く、年間発行回数が当初計画より少なくなりましたが、次年度は、予定通りの発行ができるように努力してまいります。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4人	0人	・所属訪問や引き継ぎなどで個人情報に当たる内容のやり取りがありますが、保護者から「個人情報使用同意書」を頂いており、その範囲の中での情報交換を行っています。また極力口頭でも保護者の方にお知らせし、その都度同意を頂いております。	・今後も、個人情報の取扱いに関しては、十分意識を持ち注意しながら取り扱うこと、またその都度、保護者にはきちっと確認を頂きながら進めていきたいと思ひます。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4人	0人	・お子さんや保護者の方に伝わりやすいように、丁寧に伝えるように心掛けています。	・今後も左記を継続します。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4人	0人	・事業所としての行事は特に設けていないが、社会福祉協議会の「社協フェスタ」の中で事業所の紹介や相談コーナーなどを設けて、事業所の理解を図る場にはしています	・今後も左記を継続します。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4人	0人	・大枠の内容は、重要事項説明書の中での説明をしてきました。また感染予防に関しては、教室だよりの中での周知したり、また今回の新型コロナウイルスに関しては、対応等について別紙配付を行うなどして、保護者の方に説明とお知らせを行っています。	・各種対応マニュアルは、今回事業所開設と同時に整備し、待合室にも閲覧できるようにしました。また新規契約の際、重要事項説明書の説明の中での説明も行ってきましたが、口頭説明では説明しきれていないところがあること、また発生を想定した訓練に関しては実施が中々出来ていないのが現実です。他事業所の対応なども参考の上、訓練の実施や、また口頭説明だけではなく、各種対応マニュアルを、簡略化し理解しやすいものを作成・配布するなど、内容の整備に関して取り組んでいきたいと思っています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4人	0人	・年2回、帯広市保健福祉センター内の避難訓練には、職員が参加し館内の状況等を把握し、避難、誘導などについての訓練を受けています。	・帯広市保健福祉センターの訓練は16:00以降の時間で行われるため、通室児とその保護者の参加は出来ない状況です。従って避難訓練の実施日のお知らせや、訓練の様子などを教室だよりでお知らせするような工夫などを行うとともに、必ず1回はお子さんと保護者と一緒に避難経路をたどってみること、また避難経路図を廊下に掲示するなど、保護者の方か安心できるような整備を行っていききたいと思います。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4人	0人	・相談・面接、事前アンケートの中でお子さんの状況について確認をさせていただいています。	・今後も左記を継続します。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3人	1人	・食物の提供は行っていませんが、上記同様に、食物アレルギーなどについて確認はとらせてもらっています。	・インフルエンザやコロナウイルスでアルコール消毒を行う場面が増えましたが、今回はアルコールのアレルギーなどの申告も保護者からありました。今後も各種アレルギーに関しては、保護者の方から適宜申告を行ってもらうこと、また使用前の確認作業は怠らないようにすることなど、一層の注意が必要であり適切に取り組んでいきたいと思っています。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0人	4人	・ヒヤリハットにかかわる内容は、すぐに職員間で共有し対処するようにはしてきましたが、今年度は特出するような事案はありませんでした。	・今年度はヒヤリハットに関しての事案は特にありませんでしたが、今後も注意を怠ることなく指導・支援に当たらなければならないことは基より、状況の整備しながら、「ヒヤリハット集」の作成も考えていきたいと思っています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4人	0人	・児童に関する虐待の研修自体が少なく、老人や障害者の虐待等の研修などを活用させられました。	・虐待防止マニュアルの作成は出来ていますが、職員の研修の機会を多くしていく必要があると考えています。研修会などを検索し、積極的に参加できるように対応していきたいと思っています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0人	4人	・身体拘束を行うような場面はありません。	・今後も身体拘束を行うような場面はありません。もし指導・支援場面を観察室で見ている、そのような場面があったとしたら、虐待となりますので、児童発達支援管理責任者にお知らせいただきたいと思います。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。